

どのような未来を目指すための事業か

河川氾濫による水害リスクを軽減し、
社会経済の壊滅的な被害を回避するため

堤防の整備や河川内を掘削する
ことで、水の通り道を広げます

地元の 声

- ・洪水の時に不安なので、堤防の高さが足りないところは高くしてほしい。(地域住民)
- ・川に堆積している土砂により、水がせき上げられ、氾濫する危険が高まっているのではないかと。(地域住民)



事業の概要

- 事業箇所: 前橋市下阿内町～公田町地先
- 事業内容: 河道掘削 1,800m
- 事業期間: 令和7年度～
- 事業着手前の流下能力: 4,400m³/s
- 計画流量 : 6,000m³/s

事業前

- ◆ 堤防がない又は低いため、大雨の時は河川氾濫により浸水するリスクが高い状況です。

令和元年東日本台風前



令和元年東日本台風直後



事業前の状況

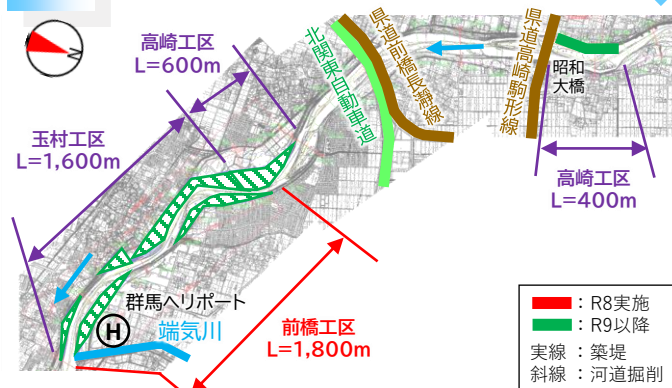
事業後

- ◆ 堤防を整備するとともに、河川内の掘削を行って水の通り道を広げることで、水が流れる容量を増やし、河川氾濫による浸水リスクを軽減させます。



事業後のイメージ

事業の進捗状況(令和8年3月末現在)



今、何をしているか

令和8年度は測量、詳細設計を実施します。



成果を示す項目	実施前
想定氾濫面積	2,886ha
想定氾濫区域内の浸水戸数	17,557戸
想定氾濫区域内の要配慮者利用施設	124施設

成果を示す項目	実施後(目標)
想定氾濫面積	28ha
想定氾濫区域内の浸水戸数	334戸
想定氾濫区域内の要配慮者利用施設	0施設